

秘密保護法の強行採決に断固抗議し廃止を求める

12月6日深夜、怒号が飛び交う参院本会議で、自民党、公明党が採決を強行して秘密保護法案が成立しました。国民の8割が廃案・慎重審議を求め、日増しに法案への批判が強まっているなか、圧倒的多数の国民の声に耳を傾けることなく、強引な国会運営によって採決したことは、民主主義を真っ向から踏みこむ暴挙であり、断じて許すことはできません。

この間、全国各地で秘密保護法案の廃案・慎重審議を求める抗議行動が連日のおこなわれるなかで、自民党・石破幹事長をはじめ与党幹部・関係者が市民をテロリスト扱いする暴言を吐き、この法案の本質と自民党の本音は白日のもとに曝されました。

ジャーナリストや学者、俳優、宗教者など国民各層、そして国際NGOなどから非難が集中しているように、秘密保護法は政府の都合の良いように情報を隠し、操作し、売り渡すという、国民の人権を著しく脅かす恐れのあるものです。

法案が可決したからといって諦めてはいられません。「TPPからの撤退」「反原発」など国民的な要求で運動する私たちを敵視する政府がこの法律を悪用すれば、日本の平和と民主主義は破壊され、戦前のような物言えぬ世の中に塗り替えられてしまうでしょう。また、安倍政権は秘密保護法を出発点にして、集団的自衛権の行使、憲法改悪、国防軍創設をたくらんでいます。私たちはこの暴挙を絶対に許すことはできません。

正義と道理は国民の側にあります。安倍政権が悪法成立に暴走するのは、国民の反対の声の高まりをおそれているからです。暴挙に暴挙を重ねる安倍政権を圧倒的な世論で包囲し、この悪法の撤廃に向けてさらなる運動に立ち上がりましょう。

2013年12月9日

全 農 協 労 連
中央執行委員長 齋藤 裕